

## 在宅人工呼吸器装着患者さんの 避難支援訓練(研修)がおこなわれました

平成24年12月4日(日) 美濃市にて

震災後に入ってきた情報の中でも大変気がかりとなったことは、人工呼吸器や酸素濃縮器などの命に直結する医療機器が、長期の停电によって使えなくなってしまう問題でした。様々な機関と連携しながら課題の検討を重ねる中で、ALS協会岐阜県支部の藤井事務局長さんの呼びかけがあり、モデルになることを承諾くださった患者・家族さんもみえ、在宅人工呼吸器装着患者さんの避難訓練が行われる運びとなりました。実施に当たって、ALS協会・難病医療連絡協議会・県保健医療課・難病連がワーキンググループをくんで取り組むという全国的にも初めての試みとなりました。当日は①県、市からの防災対策についての説明②医師による要援護者の医学的注意点についての説明③アンビュ、吸引器などの実演④毛布を使用した担架移動方法の実演⑤人工呼吸器・非常用電源の展示⑥『緊急医療手帳』の紹介などが行われ、地元自治会長さんや患者家族さんのご近所の方など多くの地域住民の方が参加され、実際にアンビュを体験したり、毛布で人を運んでみたりの訓練を積極的に行って下さいました。

(白木 記)